

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 27 年度第 1 回大学情報システム研究委員会議事概要

- I. 日 時：平成 27 年 6 月 30 日(火) 17:00 から 18:00 まで
II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局会議室
III. 参加者：岩井委員長、片岡委員、小川委員、森本アドバイザー
事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

担当理事の交代及び事前に訪問して打合せを行った報告がされた。その上で、本年度の進め方について以下の検討項目の説明が行われた。

今年度は、昨年度実施した「学修ポートフォリオ導入に向けた共通理解の促進策」を受けて「学修ポートフォリオ情報の活用対策と教職員の関わり方」について、「1. 授業の有効性を点検・評価する学修ポートフォリオ活用の留意点」、「2. 教育プログラムの効果を学部または学科単位で点検するための仕組み」、「3. 学修ポートフォリオによる学生の負荷軽減のための教学マネジメント対策」、「4. 教職員の意識変革を推進する取り組みの留意点」の 4 項目について研究することが以下の意見を通じて確認された。

また、「e ポートフォリオ構築に伴う留意点」、「運用管理する留意点の整理」、「導入事例と課題の紹介」については 28 年度に研究することになっている。

1. 委員の意見

- ・ 今回の項目は深い内容になっており、例えばティーチングポートフォリオをどのように提示できるか課題であるが、教員評価制度以外の方法などとして貢献度は高いと考えられる。ポートフォリオで教員の努力を可視化したり、外部者の意見を取り入れて自ら振り返る仕組みなどを公表することで評価の対応になるのではないかな。
- ・ IR にポートフォリオが貢献することが大切で、それにより経営的にも価値が高まると考えられることから、IR を常に意識する必要があるのではないかな。
- ・ IR とポートフォリオの関連が整理されてないことが課題ではないかな。IR の膨大な情報の一つとしてどのようにポートフォリオを利用するかの問題の一つに数値化がある。ポートフォリオを定量的でなく定性的なデータとしてのエビデンス活用するイメージが提示できれば良いのではないかな。
- ・ アメリカの IR の例では、注目するデータを毎年積み重ね経年変化を確認することでこのような教育を実施することでこのような成果が出るなどストーリーや仮説を描くことが大事ではないかな。闇雲に解析をしても何も得られないのではないかな。IR の視点として教育プログラムの在り方を教員全員で考える素地が必要ではないかな。
- ・ ティーチング・ポートフォリオとしては、教員が自らの授業を振り返るためのワークシートを積み重ねることが考えられる。例えば、授業の振り返り、他教員からのコメント、アンケートを含めて授業改善について検討する仕組みがされる。
- ・ 教学 IR、教学データ、ポートフォリオの組み合わせはビックデータと考えられ、授業間の行動ログ、システムアクセスログなどの組み合わせをだけでも今までに見えなかった

ものが見えてくる可能性があり、数値化できないエビデンスを加える必要がある。

- 例えば、PBL、アクティブラーニング、プロジェクトの実施で学生の間層が伸びている実感があるが、因果関係があるのか相関がどのようにあるのかなどを示すことが困難だが、方向性が間違い出なければ事例がなくとも良い部分は正義を持って表現する必要があるのではないか。
- 真の学力として、高等では知識と技能の習得、大学では主体的に協働・多様な価値観での学び合いからイノベーションにつなげることが求められている。解のない問題に自らチャレンジする姿勢について、仮設・ストーリーで授業・教育プログラムがどのように貢献しているのかIRに関わるポートフォリオのイメージを出すことできないか。
- IRのイメージはシンプルにする必要がある。また、データを集めただけでは意味がなく、例えば質的転換が好循環で回っているなどは仮説・ストーリーを検証していくこと。ビッグデータに魔法をかければお宝が見つかるという思い違いが多いと感じるが、見たいものの相関を取って検証し振り返るをわかりやすく示す必要があるのではないか。目の付けどころが重要ではないか。
- 目の付けどころが重要ではないか。入学から経年的な学生生活の満足度などに寄与している変数はなにか、例えば板書か、シラバスか、授業スピードかなど検証から改善できる可能性が考えられる。

V. 今後の検討の進め方について

次回の委員会は、8月3日(月)10:00から開催を予定し、「授業の有効性を点検・評価する学修ポートフォリオ活用の留意点」について検討を進めることにしている。そこで、検討項目について委員それぞれがコメントを持ちより検討することにしている。